

ETAS Connections 2014

ETAS

Connections 2014



AUTOSAR のすべて

シュトゥットガルトにある Robert Bosch Haus(ロバート・ボッシュの旧邸宅)で先日 ETAS Connections 2014 が開催され、50 余名の参加者が出席しました。このマネジメントイベントでは AUTOSAR、ソフトウェア開発に関する協力、およびこれに関して、高度に自動化された運転、Car-2-X 通信、安全性などといった今日のトピックによりもたらされる諸問題が取り上げられました。

ETAS のセールス担当役員である Christopher White による歓迎の挨拶に続いて、シュトゥットガルト大学ソフトウェアテクノロジー研究所教授 Erhard Plödereder 博士が、Daimler 社、BMW 社、Bosch 社、および ETAS の演説者が登壇するプログラムのテクニカルパートを参加者に紹介しました。Daimler AG のネットワークおよび標準ソフトウェア代表である Stefan Schmerler 博士はプレゼンテーションの中で、開発プロセス全体を通じて標準規格を一貫して使用することのメリットを強調しました。博士の説明によれば、AUTOSAR をシステムの仮想表示とともに使用すると、ターゲットハードウェアが準備できるより前に車両の諸機能を統合して評価できるようになります。ETAS 代表取締役である Friedhelm Pickhard は、ソフトウェアの規模と長い使用可能期間を前提とし、さらにセキュリティ要件が増大していることを考えると、品質こそがソフトウェアの決め手になると述べました。ETAS は AUTOSAR を、先進的な開発ツールを使用するための前提条件であると考えています。Bosch Automotive Systems Integration

Corporate 部門の車載ソフトウェア担当副社長である Steffen Lupp 氏は、この標準規格の新しいアーキテクチャおよび継続について展望を示しました。同氏は、サービス指向のソフトウェアアーキテクチャへの転換を予測しました。BMW 社が最も重要と考えているのはソフトウェアの再利用です。なぜなら、それが革新のペースを早めることになるからです。そこで、2015 年には AUTOSAR 4.0 の本格展開を開始する予定であることを、BMW AG の Software Architecture and Platform Software ゼネラルマネージャーである Simon Fürst 氏は説明しました。Fürst 氏はまた、OEM や Tier 1 サプライヤの間の連携を高めるための重要な要素として、オープンソース、アジャイルプロセスモデル、および仮想環境へのソフトウェアの継続的統合を取り上げました。Bosch 社のモデルベースソフトウェア開発・ソフトウェアシェアリング担当上級顧問である Mouham Tanimou 博士は、MAN 社で請け負うプロジェクトについて説明しました。このプロジェクトでは、EDC17 エンジン制御装置、エンジン、およびの排ガス処理を INTECRIO 内で仮想システムとしてプロ

トタイピングすることになります。このシミュレーションの高い予測性能により、ソフトウェアのテストおよび適合のタイミングを開発プロセスの上流に移して効果を上げることができるようになります。Connections のテクニカルパートのハイライトであり最終のセッションとなったのは、演説者によるパネルディスカッションで、聴講者からも活発な参加がありました。AUTOSAR 開発パートナーシップにより可能になった「標準化の普及」が今後の車両システム開発のために必須の条件であるということでは、全員の意見が一致しました。